

令和7年度 大津市立仰木の里幼稚園 学校教育評価表

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項目	評価の観点		職員評価 (3・2・1・0)	職員評価（○成果 ★課題）	関係者評価 (3・2・1・0)	ご意見をご自由にお書きください
主体的・対話的で深い学び	1	友達と互いに思いを寄せ合える集団づくりの実践	3	○魅力ある環境づくりや援助について園内研修で深めてきたことで、子どもの心が動く環境を整えることができた。 ○「友達との協同体験」を意識して取り組んできたことで、自分中心だった姿が、友達のことも考えられるようになってきている。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが仲良く生活する必要性を身に付けることは重要だと思つた。</li> <li>・友達との関わりが刺激となっている状況、自分の体験や思いを伝えようとする姿の発達も見られており、良い取組、環境づくりをされていると思う。</li> <li>・ごっこ遊びでは、様々な環境の工夫がされていた。</li> <li>・先生たちが、子どもと程よい距離感で関わっていることが良いと感じた。</li> <li>・ICTの活用については、避けては通れないが、幼児期には実体験を優先してほしい。コンピューターにふれることは、小学生になつてからでも遅くはない。</li> <li>・ごっこ遊びでは、子どもの主体性がよく感じられた。</li> <li>・園内で、いろいろな体験を通して子ども達が成長していることがうかがえた。</li> <li>・人と人との関わりが人間形成の成長期には最も大切となる。友達との協同体験が少子化の現代には重要な取組である。</li> </ul>
	2	協同する体験・伝え合う喜び・言葉で表現する意欲を生み出す保育の工夫改善（ICTを活用した幼児教育）	2	○縦のつながりを深めるため、意図的に交流の機会をつくってきたことで、学年を超えての関わりが見られるようになってきた。 ○したいことが十分にできる環境をつくってきたことで、「やってみよう」の気持ちが育まれた。		
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する保育研究や研修会の実施	3			
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心や人を思いやる気持ちなどを育てる保育実践	3	○教師が人との関わり方のモデルとなることで、自分だけでなく友達のことまで考えて行動できるようになってきた。 ○トラブルや怪我等について、職員間で共通理解丁寧を受け止めてきたことが、保護者の啓発につながった。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物を通して命を大切に取る取組が良いと思う。</li> <li>・人との関わり方は、教師がモデルとなることで方向付けができていていると思う。</li> <li>・今後は個々の感情の自己調整の育ちにも着目し、本人にフィードバックしてはどうか。</li> <li>・保育室の掲示物(生活習慣の約束)が、自然と子ども達の身につくものとなっていた。</li> <li>・日常の生活の中で起こるトラブルや飼育の中で子どもたちに話をすることが大切。</li> <li>・地域としてできることは行いたい。</li> </ul>
	5	様々な人との体験を通して、道徳性や規範意識の芽生えを育む指導	2	○地域の方との交流を通して、人との関わり方や自然の動植物の命の大切さなどを感じる事ができた。 ○飼育を通して小さな命を大切にしてきたことが、仲間への思いやりや優しい気持ちにつながった。		
	6	道徳性の育ちに向けての保護者への啓発と連携	2			
体力づくり	7	魅力ある運動的な遊びの工夫改善	2	○体を動かしたくなる環境をつくってきたことで、意欲的に遊ぶ姿が見られるようになった。 ○教師がモデルとなって楽しく遊ぶ姿を見せることで、子どもも遊ぶ楽しさを感じることができていた。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭にはない環境や行事によって子ども達が主体的に運動に取り組んでいることが分かる。</li> <li>・日常的な保健指導が定着しているのは素晴らしい。</li> <li>・運動会を参観し、子ども達に自然に目標を持たせて活動を促しておられた。</li> <li>・小学生との交流で、走る意欲が高まっていったのはすごい。</li> <li>・朝のマラソンの取組が体力向上につながっている。</li> <li>・少人数の中で子どもたちが意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・気配りの行き届いた園庭は素晴らしい。</li> <li>・子ども達が力いっぱい走り回り、泥で遊び、遊具が充実していることが何より代えがたい。</li> <li>・先生たちが一緒になっての外遊びも公立ならではの良さだと思つた。</li> </ul>
	8	体を動かす喜びや心地よさを通し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	3	○園外での研修や他園との情報交換を行い、園内の環境づくりに取り入れた。 ○冬季はマラソンや体操をする時間を設け、子どもの体力向上に努めている。		
	9	健康や安全に必要な習慣や態度の育成	3			
指導改善 (組織的・計画的)	10	幼児理解や教材研究に基づく保育の基本を踏まえた指導改善	3	○日々の保育カンファレンスの実施により、幼児理解や次への保育展開の見直しもつづけてきている。 ○学年を超えて保育内容の共有をしてきたことで、全体を見る意識が高まってきた。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスで幼児理解・保育展開の見直しをもっていることはすごい。それを続けつつ、新たな教育、指導要領へつなげる改善をしていただきたい。</li> <li>・「全園児を全教職員で」という取組を体現して欲しい。</li> <li>・働き方改革は先生たちにとって大事な取組である。早く帰ってリフレッシュし、翌日の保育に全力を注いでいただきたい。</li> <li>・先生たちのたゆまない努力、年齢に応じた教育への取組は表に出てこないで、保護者は知らないのでは。</li> </ul>
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3	○異年齢の活動を意図的に取り入れていることで、より教師間の連携が取れるようになった。		
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2			

育ちと学びを支える連携

家庭・地域との連携・協働	13	子育てや家庭教育に対する保護者への積極的な支援	2	○保護者との信頼関係の構築を大切に関わってきた。 ○地域の良さを保育に取り入れ、保護者に啓発できた。 ○様々な家庭にも寄り添い、支えることができた。 ★地域と保護者がつなげる機会がよリモてるとよい。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭からの良い評価は丁寧な取組の成果であると思う。保護者の中には十分に幼稚園教育を理解されていない方もおられるのでは。それを今後の取組に生かしていけばよいのではないかと。</li> <li>・幼稚園も小学校も地域の方に支えられていると感じる。</li> <li>・保護者が園行事に参画されるのがよい取り組みだと思つた。</li> <li>・地域や保護者を巻き込んだ取組をもっと取り入れてもよいのでは。</li> <li>・PTA解散後のヒントをいただいた。</li> <li>・高齢化している地域の特性もおおいに利用してほしい。</li> </ul>
	14	保護者・地域との交流や情報発信、保育参加・参観、懇談会、研修会の実施	3			
	15	防災教育の推進、感染症対策の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	2			
保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	○5歳児と小中学校との交流の機会は多く、いろいろな人に親しみを感じることができた。 ○接続カリキュラムの作成にあたり、幼小の取組を互いに知ることができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を今後も続けてほしい。</li> <li>・幼小中の校種間の取組が活発で、子ども達もつながりや親しみが持てるようになってきている。</li> <li>・連携が意味のあるものだとわかった。これからは継続できるとよい。</li> <li>・校種間の交流を進展させて、地域全体を巻き込んでいけるとよい。</li> <li>・校内研修に園の先生が参加できたことが、一歩前進。</li> <li>・いろいろな年代と関わることは互いにとって良いと思う。未就園児との交流もあるとよい。</li> <li>・小中と交流も互いに意欲的でよかった。</li> <li>・幼小の接続カリキュラムは、子ども達の主体的な学びを連続として重要だと思つた。</li> </ul>
	17	校種間の授業公開や合同研修会	2	★公立同士での交流は3、4、5歳児共に行うことができたが、民間園とは今年度行えなかった。地域の園として交流の機会をもっていきたい。		
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	3			

組織的体制の充実

生徒指導体制の充実	19	事故やトラブルの未然防止、早期発見、早期対応を大切にされた指導	2	○園児を全職員で見守る意識で保育を行ってきた。より連携が深まると子どもの姿をもっと多面的にとらえることができる。 ○トラブルはすぐに共有し、対応することができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有と目標等のベクトルをそろえることは難しいと感じる。</li> <li>・園時や保護者のトラブルは発生への対処よりも、事前に起こらないようにする気配りが大切。</li> <li>・細かなところで捉え方の違いが出ると思うが、その点を協議することがより深い理解につながると思う。</li> </ul>
	20	子ども一人一人への理解を基盤とした組織的指導体制	3	★同じ方向性で指導を行っていたが、個々の捉え方のニュアンスの違いから、関わり方が変わることがあった。		
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2			
特別支援教育の充実	22	個別指導計画の作成と活用	3	○子どもの姿やねらいを全体で協議した後指導計画を立案することで、支援の在り方について共有できた。 ○外部からのアドバイスを受ける機会があったことで、保育に生かすことができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態に合わせた指導を職員全員が共通意識をもって取り組んでほしい。</li> <li>・子どものエピソードを伝えてもらおうと嬉しいという保護者の声がある。子どもの姿をしっかり見て教育に生かし、保護者に伝えることがよい成果となっている。</li> </ul>
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3	○個々に合わせた計画のもとに、保育を組み立てることができた。		
	24	家庭・関係機関と連携した相談体制の充実	3			

学校満足度	25	幼児の幼稚園満足度	2
-------	----	-----------	---

保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.52
-------------------------------------	------

【その他ご意見がありましたら、こちらへお願いいたします】  
 ・幼児と触れ合うことは本当に楽しい。その裏には先生方の努力があると感じる。  
 ・これからも地域との連携を大切にしていきたい。  
 ・地域の園通信を楽しく読ませてもらっている。園の様子がよくわかる。  
 ・運動会などを見ると3、4、5歳児の成長がよく分かる。  
 ・アンケートの回収率が高いことは、園への満足度が高いと感じた。  
 ・今の新しい教育の流れを最も理解し、実践しているのは幼保ではないかと思う。機会があればぜひ次代を担う子供たちの教育について話してほしい。